

春夏号

フォレスト大分西部

国民の森林めざして

栃木県の足尾町を訪れたことがありますか？利根川の支流、渡良瀬川の最上流部に足尾町があります。古くから銅山で栄えていた町で、明治20年代には、国内の銅生産量の4割を占める日本一の銅山となり、最盛期の人口は4万人を超えるまでになりました。しかしながら第二次世界大戦後は、資源の枯渇やコスト高などにより低迷が続き、30年前の昭和48年、400年余りの鉱山の歴史に幕を閉じました。

ちょうど足尾銅山が最盛期のころ、日本の公害の原点と言われる「足尾銅山鉱毒事件」が一大社会問題となりました。栃木県選出の代議士である田中正造氏が、議員生命を賭けて鉱毒事件に取り組んだことは、小学校の教科書にも取り上げられるほど有名なことであり、その姿に感銘を覚えた方も多いのではないのでしょうか。しかしながら、その様な懸命な取り組みにもかかわらず、渡良瀬川流域の多くの人々は、長年鉱毒による被害に苦しめられました。

ところで、人々以外にも、銅山からの亜硫酸ガスによって、100年後の現在に至っても、未だに立ち直れない位に深刻な被害を受けたものがあるのを、ご存知でしょうか？

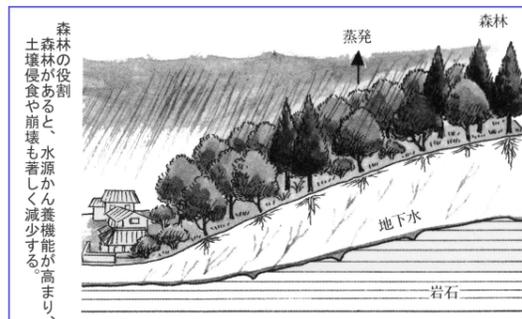
それは、町の上流側の森林なのです。渡良瀬川の源流であるこの森林は、明治以前はうっそうとした木々に覆われていました。しかしながら明治維新以降、銅山の操業が盛んになるにつれて、精錬所の煙突の風下側に位置していることから、毎日毎日亜硫酸ガスの影響を受け続け、徐々に樹木が枯れ果て、ついには土壌や栄養分までも流れ去って、不毛のゴツゴツとした、グランドキャニオンのような岩山となってしまったのです。



ここは国有林でもあることから、以来、営々と緑化事業と行っていますが、大変苦勞しているところです。

一度なくした土とみどりを取り戻すことは、大変骨が折れ、また時間のかかる仕事なのです。

引用・参考文献：「森よ、よみがえれ 足尾銅山の教訓と緑化作戦」
秋山智英著（日田市立淡窓図書館にあります）



くらしを育む国有林

平成15年7月15日 発行

大分西部森林管理署 署報 第9号

〒877-0011 大分県日田市中城町1-1

TEL:0973-23-2161 / FAX:0973-23-2163

<http://www.kysyo-shinrin.jp/06ooitaseibu/index.htm>